



主要な野菜害虫に対する高い効果。長い残効、高い安全性、土壌残留の心配がありません。

「カウンター乳剤」

かねてから適用拡大を進めておりました脱皮阻害型殺虫剤「カウンター乳剤」が、てんさいのヨトウムシ及びきくのミカンキイロアザミウマに対して登録となりました。害虫にきびしく天敵にやさしい「カウンター乳剤」の優れた特性と2007年の適用拡大の状況をご報告いたします。



昆虫成長制御剤の分類

「カウンター乳剤」はキチン質の生合成に対して作用する薬剤で、その作用性から昆虫成長制御剤（IGR剤）に分類されます。一般的にIGR剤は以下の2通りに分類されます。

(1) 脱皮阻害型 IGR…キチン質の生合成を阻害し、脱皮不能により対象害虫を死に至らせる薬剤。

(2) 脱皮促進型 IGR…通常より早く脱皮を開始させ、脱皮不全により対象害虫を死に至らせる薬剤。

それぞれの特徴・代表的な薬剤は別表の通りです。(図表1参照)

■図表1 脱皮阻害型と脱皮促進型の特徴と代表的な薬剤

	脱皮阻害型	脱皮促進型
効果発現	やや遅効的	阻害型よりも速い
スペクトラム	広い (鱗翅目だけでなく、アザミウマ/コナジラミ/ハモグリバエ/サビダニ)	狭い (ほぼ鱗翅目のみ)
スプレーコスト	安い	概して阻害型よりも高い
分類される製品 (混剤は除く)	カウンター/マッチカスケード/ノーマルト/アタプロン/ラノー/アプロード/デミリン等	ロムダン/ファルコン/マトリック等

脱皮阻害型IGR剤の特長

「カウンター乳剤」は脱皮阻害型に分類されます。主な特長は次の通りです。

- 特徴1 主要な野菜害虫に対する高い殺虫効果**
難防除害虫の「コナジラミ類(タバココナジラミ)、マメモグリバエ、主要鱗翅目害虫(オオタバコガ、コナガ、アオムシ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ)」に対し、高い防除効果を示す。
- 特徴2 長い残効**
「コナジラミ類」の卵、幼虫、前蛹に対し長期間密度抑制する。また、コナガ、アオムシ、ヨトウムシ等の鱗翅目害虫に対して約3週間の長期残効が期待できる。
- 特徴3 高い安全性**
人畜、魚類に対する安全性が高く、土壌残留の心配がない。後作物に対する影響も認められていない。

カウンター乳剤の適用拡大状況

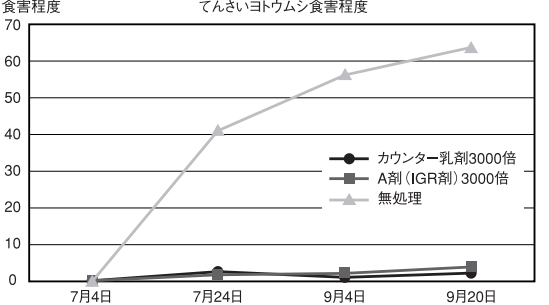
カウンター乳剤は、2007年5月31日に「てんさい・ヨトウムシ」(2000~3000倍)、同年9月5日に「きく・ミカンキイロアザミウマ」(2000倍)、11月14日に「てんさい・カメノコハムシ」(3000倍)にそれぞれ適用拡大されました。現在の適用内容は図表2の通りです。



■図表2 カウンター乳剤の適用内容(2007年10月末現在)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ノバルロンを含む農業の総使用回数
キャベツ	コナガ アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ	2000~3000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
なす	コナジラミ類 オオタバコガ ハモグリバエ類 ハスモンヨトウ			収穫前日まで	4回以内		4回以内
トマト	コナジラミ類 オオタバコガ ハスモンヨトウ			2000倍	収穫7日前まで		2回以内
てんさい	ヨトウムシ	2000~3000倍		収穫7日前まで	2回以内	2回以内	
きく	カメノコハムシ	3000倍					
	ミカンキイロアザミウマ	2000倍					発生初期

■図表3



平成18年日本甜菜製糖(株)での試験
対象害虫発生状況:中発生 品種:えとびりか
試験規模:一区 11m²(畦幅66cm/株間22cm/畦長4.18m/4畦)
散布量:100L/10a
処理年月日:平成18年7月25日(1化期)及び9月6日(2化期)

「てんさい」ヨトウムシの効果と持続性

2007年適用拡大された「てんさい」について、その効果・持続性を紹介します。(図表3参照)

「カウンター乳剤」は「てんさい・ヨトウムシ」(北海道ではヨトウガと呼ばれています)の試験に於いて、「1化期前からの散布で長期間「ヨトウムシ」の食害を抑制し、残効性のある結果が得られています。また、本年(2007年)「アシゲロハモグリバエ」の委託試験を実施しており、2008年1Qに適用拡大申請の予定です。

「カウンター乳剤」はさらに多くの作物・害虫で使っていたために、現在、日本植物防疫協会、委託試験で多くの作物でその効果確認を行っています。

今後ともご愛顧いただきますようお願い申し上げます。



株式会社エス・ディー・エス バイオテック